

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291400014		
法人名	営利法人 矢崎総業株式会社		
事業所名	ヤザキケアセンター 紙ふうせん		
所在地	静岡県裾野市御宿1500		
自己評価作成日	平成23年01月06日	評価結果市町村受理日	平成23年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 igo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=22914

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 システムデザイン研究所		
所在地	静岡県駿河区馬淵2-14-36-402		
訪問調査日	平成23年1月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い敷地を生かして、畑や花壇を楽しんでいる。またそこでの作業も行なえる方は行なっている。日々のケアの中では出来るだけ毎日入浴を楽しんで頂き、それを通じて循環も良くなり皮膚疾患も少なくなる事を期待している。体調の変化に気づき早期に対応していける様、看護・介護職員が連携してケアに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

岩波駅から車で2~3分の、広大な敷地に事業所はある。春には桜、秋には銀杏など四季折々の木々に囲まれ、利用者は散歩を楽しんでいる。商業施設や保育園もあり、身近なところで買物や園児との交流が実現している。ボランティアは矢崎グループの矢厚会の皆さんが自発的に来所し利用者を楽しませている。最近ではバラエティに富み、さらに充実した時間となっている。また、看護師が2名いるので日々の健康管理や主治医との連携がスムーズである。変化にも早期に気づき、きめ細やかな対応が可能となっている。このように環境面・医療面の充実が利用者の安全・安心な生活につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方から必要とされる事業者であり続ける事を施設全体の理念として管理者・職員共有している。グループホームのカンファレンスの中で、独自の理念作りに向けて意見を取りまとめている。利用者様と共有できる理念を目指している。	「今までの生活を大事にその入らしく」過ごせるよう個々の様子を受け止める姿勢を大切にしている。また認知症の方の対応について日々検討を重ねている。が、ホーム独自の理念を持っていないため、作成へ向け取り組み中である。	ホーム独自の理念を作り上げ、ケアに活かすことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	矢崎自治会に参加し、清掃活動にも出来る範囲で参加している。自治会主催の祭り、事業所主催の祭りに相互の参加を行い交流を深めている。保育園の訪問を積極的に受け入れ、庭に遊具を設置し、気軽に立ち寄れるよう工夫している。	矢崎団地の自治会に加入している。毎月第3日曜の清掃に利用者も一緒に参加している。芝生に遊具を設置したり池に金魚を放し、保育園児と自然に交流を持てる場を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域中学校の職業体験の場として提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期(2ヶ月に1度)開催し、利用者家族・区長・民生委員・行政代表等と話し合い、サービス向上に生かしている。	家族と意見交換ができる貴重な場になっている。ホームで囲碁を打つてもいいかとの問い合わせがボランティア活動になり、現在の充実した関係へと発展した例もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域調整会議への出席や介護認定の更新手続き等で市担当者と連絡を取り合っている。又電話やFAXを活用し、相談、報告等に努めている。	毎月地域調整会議へ参加し、介護保険室担当者と情報や意見を交換している。また月に1回開催される「認知症を語る会」にできるだけ顔を出し、市職員・市民を交えて認知症やGHIについて話をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修受けた看護士より報告を受け内部研修行った。どの様な事が拘束になるかを理解しケアに取り組んでいる。入り口に施錠する事が拘束にあたることは理解しているが、施錠しない事で想定される事故を防ぐ為に出入り口は施錠している。	ゼロ宣言をしている。身体拘束について研修を繰り返し行い、外部研修の報告も全職員が目を通し、周知徹底を図っている。が、指針となるマニュアルの整備がなされていない。	マニュアルを整備し、職員の身体拘束に対する意識がさらに高まることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護職員1名がH22.3.4認知症介護基礎研修において学んできた事をカンファにて報告し、学んだ。又、看護士がH22.11.6身体拘束廃止の研修にて学んできた虐待について、カンファにて再確認し、理解を深めた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員1名が認知症介護実践者研修(H22.7.8～10.7)で学んできたことをカンファにおいて報告し知識の共有をはかっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、申し込みから契約に至るまでの間必要であれば複数回面談を行い十分に説明し、御理解・御納得を頂ける様努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族が気軽に職員に話しかけられるよう、顔写真を使いスタッフ紹介をしている。意見箱の設置や運営推進会議・各種行事への参加を依頼し、意見・要望が運営に反映される仕組みを講じている。	年1回家族アンケートを行っている。面会時には必ず顔を合わせ、状況を伝えながら要望を伺っている。心地よい睡眠への導入にアロマオイルの活用を提案され、現在実践中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の部門長会議およびカンファレンスにおいて職員からの意見を聞き、運営に反映させている。	個々に目標を設定し、評価する仕組みがあり、年1回個人面談を行なっている。環境整備や業務について等意見が上がると、改善に向けて迅速な対応をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事の取り組みについて目標を設定し、昇給時に評価を行い給与の見直しを行っている。恒常的な残業が発生しないように人員の配置を行っている。資格取得についても給与に反映し、向上心が持てるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	静岡県社会福祉人材センター等の外部研修に積極的に受講させると同時に、必要に応じた内部研修機会を設けている。認知症介護実践者研修に毎年1名を参加させると共に、介護福祉士資格取得を推奨し、給与に反映させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不定期ではあるが、市内他事業者の運営推進会議に相互参加している。行事にも招き交流を通じて情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	言葉からの訴えでなく、言語化されない訴えをくみ取れる様良く観察し、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必要に応じて何度か面談する機会をつくり、安心して相談していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性があるかどうか等検討し、すぐにこちらでのサービスを提供できない場合は、ほかのサービスの利用検討を頂く様お話ししている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の持っている力を把握して職員と水平の関係を築ける様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時の説明にて、ご家族の協力が必要である事を御理解いただき、受診や外出の協力を仰いでいる。また面会にも来ていただける様お伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会を受け入れ、これまでの人間関係が継続出来る様努めている。	家族や友人などが気持ちよく訪問してくれるよう、笑顔で対応することを心がけている。面会に来たときは家族写真を撮り、話材としても提供している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がスムーズに関われる様に、職員は間に入って意思を伝達する等サポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了した方とは、以後連絡等をとることはしていない。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接伺える場合は希望を伺っている。困難な場合は、日頃の様子を観察させていただき、非言語の訴えを導き出しスタッフ全員で考えけんとうしている。	生活史情報用紙に利用者の関心がある事・1日の過ごし方等細かく家族に記入してもらう。利用者の言葉を表面上で捉えず、多角的に見ることで様子を丁寧に観察している。また、申し送りやカンファで常に変化を話し合い、対応できるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らしについて家族に記入していただくシートを作り活用している。御本人に伺える場合は伺っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の担当職員を決めると共に、毎日の過ごし方、心身状態を観察、記録し、カンファレンスを通して総合的に把握出来る様に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人の希望・訴え、家族・担当職員それぞれの意見を踏まえて、計画作成担当者が介護計画を作成している。	家族が受け止めている利用者の思いを聞き取り、カンファレンスで検討している。日々の様子観察や生活史情報用紙も活用し、プランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録・申し送りノートに記載し、職員は常に目を通し情報を共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1F通所介護レクへの参加も時により行なっている。通所介護サービス利用者様と基を打ちに行く事もある。			

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一般ボランティアに加え、社内ボランティアにも協力を頂き、利用者様の生活の充実のお手伝いをしている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医と連携をとっている。定期的な受診・往診を御本人と御家族が納得の上行っている。	今までのかかりつけ医を継続している。受診情報は「医療機関受診の記録」に記載し、薬の変化についても職員が把握できるようにしている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームのスタッフとして看護師が2名おり、健康管理、主治医との連携、急変時の対応をしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院の相談員や医療連携室と連絡を取り合い、情報交換を行なっている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	任診に来ていた主治医とは定期的に話し合い、御家族には主治医を通して説明していただく事としている。終末期の対応についてカンファレンスにて検討した。主治医と連携を取り、その人に合ったプログラムを作成し、御家族の意向も考慮した介護にあたる。	契約時に支援できること・できないことを家族に説明し、納得してもらっている。家族の意思を尊重しながら今後について話し合いをしている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命(AED)の講習を全職員が受けられる様定期的に講習会を行っており、順次参加している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間については防災訓練にて対応を確認している。夜間についても、カンファレンスの際など定期的に対応を確認し、協力は常に呼びかけている。	矢崎自治会の防災訓練に参加しているが、事業所の訓練に地域からの参加はない。しかしながら有事に備えての協力はお願いしである。 事業所内訓練へ地域の方に参加してもらい、様子を把握してもらうこと、また協力体制をさらに強固にする事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様は人生の先輩である事を念頭におき、支援を行なう様努めている。言葉遣いについても十分に注意をし、記録に使う用語についても差別につながるものは使用していない。	接遇を学び、ケアにつなげるように努めている。「抑制・禁止するような言葉は使わない」「とっさに出てしまった言葉のフォローも忘れない」ことを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で表した想いはもちろんの事、非言語的な想いをくみ取れる様、観察しながら日々支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・入浴・就寝などの大まかな日課以外は、入居者一人ひとりの意向とペースを尊重し、自由に過していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容、美容については同敷地内の理髪店、美容院を利用している。服装については、御本人の好みの物を御家族に用意して頂き、出来る限り自由に選んで頂いている。介助が必要な方については最小限のお手伝いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みについては、御本人や御家族から聞き取りを行い対応している。食事の準備については、たまに野菜の下ごしらえをお願いする程度だが、片付けについては出来る範囲で下膳、皿拭き等お願いしている。	利用者の好みを把握し、苦手なものについては出来る範囲で代替している。利用者が主になり楽しむ機会として2ヶ月に1回パン・ピザ作りや恵方巻きなどの行事食を職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックを行い、足りない方に対しては、その方にあった摂取法にて不足の無い様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自歯の方、義歯の方それぞれ毎食後口腔ケアを行なっている。それぞれの力に応じて支援も行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により1人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄に向けて誘導・声かけをしている。	パターンを把握し誘導しているため、トイレでできる利用者も少なくない。また水分補給にも配慮し排便を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分・運動でコントロール不可の場合、主治医上申にて内服、サプリメント処方していただく。排泄チェック表により個々の排泄間隔を把握しておくよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月～土はいつでも入浴して頂ける様用意をし、一人ひとりの希望に沿えるよう努めている。	できるだけ希望する時間に対応するようにしている。入浴を拒否する利用者には声かけを工夫し、スムーズな誘導を努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床から就寝までの1日の生活リズムを画一的にせず、一人ひとりの生活パターンに応じて、休息・睡眠をとっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書をファイルにまとめ、いつでも見れる様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴からこれまでの楽しみ事を知り、出来る範囲で提供(生け花・囲碁等)したり、施設内にある畑やカラオケ室を利用してのレクリエーションを提供したりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り一人ひとりの希望に沿って、戸外に出掛けられるよう支援している。大規模な商業施設での買い物を希望された方に対して、他の方を含めての外出計画をたて支援した。	希望により近くの商業施設に買い物に行ったり、外食をしている。外気浴のために「金魚のえさやりに行こう」と言って外に誘い出したリベランダに出て気分転換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所の散歩の際、商店(パン屋・スーパー)で買物を楽しんで頂いている。可能な方は個別に支払いも行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の希望により、職員が仲立ちをして、電話連絡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様を混乱させる事が無い様配慮している。また皆さんの作った作品を掲示したり、花を活けたりする事で居心地良く過せるよう工夫している。	生け花の好きな利用者に花を飾ってもらったり、アクティビティや行事の写真を掲示している。また手すりや足元をふさがないよう安全面に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	あちこちにソファや長いすを置き、好きな場所で休んで頂ける様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人の馴染みの家具を持ってきて頂くなど、御家族にも協力頂いている。	クローゼットが備えつけてある。また床暖房を完備している。寝具は自由に持ち込むことができる。絵画に囲まれたり面会時撮影した家族写真を飾ることで安心する利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行していただき、筋力の維持がはかれる様工夫している。また居室の目印となる「のれん」、トイレの張り紙などにより間違える事のない様工夫している。		